

卵肉兼用種「福地鶏」の供給事業

1 事業の目的・必要性

越前地鶏は平成15年に生産が中止されたが、再び地鶏に対するニーズが高まってきた。生産費が安く県民の嗜好に合った卵肉兼用種の地鶏生産を推進するため、産卵・肉質性の技術向上を図りながら交配を重ねて開発された新地鶏「福地鶏」を平飼い養鶏農家へ供給することにより、養鶏農家の経営安定に資する。

2 事業項目・内容・年度計画等

福地鶏は右図のように、2種類の鶏を交配して生産されたヒナの雌だけを育雛して、大雛（120日齢）で県内の農家へ供給するとともに、併せて種鶏の生産性向上のために育種改良も行う。

(1) 飼養羽数

品種	種鶏 ♂	種鶏 ♀	合計
岡崎おうはん	0羽	120羽	120羽
ウエミチレッド	15羽	27羽	42羽
ロードアイランドレッド	4羽	0羽	4羽

(2) 農家への供給羽数

年間譲渡羽数 2,400羽（200羽×12回）

譲渡日齢 120日齢

3 期待される成果等（成果目標）

福地鶏の生産拡大を図ることで、平飼い養鶏農家の経営安定に資する。

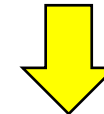
福地鶏交配図



ウエミチレッド ♂
(福井県在来)



岡崎おうはん ♀



福地鶏 ♀